

## 中部軍司令部防空作戦室跡

第二次世界大戦中、帝国陸軍はここに堅牢な要塞化されたコンクリートの掩蔽壕を建設し、国内で数少ない防空司令部の 1 つを置いた。軍部はここで米軍の空爆に対する防衛を統制し、空襲警報を発した。掩蔽壕は荘重な構造であった。外側のコンクリート壁は 1メートル以上の厚さで、その構造は地下 1 階を含めて 4 フロアで構成されていた。防空作戦室には若い女性と少女が無線通信員として働いていたが、その多くは高校生であった。司令部の建物は戦争を生き延びたが、1970 年の大阪万国博覧会を開催する準備の一環として、（終戦から）四半世紀後に取り壊された。現在、日本に残る唯一の防空司令部は広島にあり、1945 年の原爆投下にも持ちこたえた。